

仙台市基本計画（中間案） オンライングループインタビュー（OGI）報告

令和2年11月

一般社団法人IMPACT Foundation Japan
クオン株式会社



プロジェクトの概要

今回の仙台市基本計画（中間案）について、弊社団としても様々なステークホルダーの意見を集約したいと考える中、コロナ禍の制約された環境も考慮の上、オンライングループインタビュー（以下「OGI」）という産業界で活用が広がっている新たな手法を採用。仙台市民のみならず、将来の仙台市民（移住希望者）にまで対象を広げ、様々な「インサイト」を得ることができましたので、その概要版を共有させていただきます。

➤ OGIとは？

OGIとは、インターネット上に設置したクローズドな「部屋」に参加者（1部屋あたり10名程度）を集め、複数回にわたるオンラインでのやり取りを通して、対面でのインタビューでは語られなかった本音や、徐々に深まっていく思考の中から本質を探り出していく手法。「立場的制約」「空間的制約」「時間的制約」を飛び越えることができるため、いつでもどこからでも参加でき、直接生活者の声を引き出すことができる。近年、大企業による生活者に向けたマーケティング手法として活用が広がっているが、今回はその知見とノウハウを活用し、日本でも初めて、市民を対象とした形で実施。

➤ 今回のOGIについて

- 期間：2020年9月11日から2020年10月11日
- 対象：オンラインコミュニティ「東北ココロイキルヒトコミュニティ」公募・選考し、以下のメンバーで実施

グループ	参加者属性
Aグループ：仙台市民 7名	30代 男性1名/女性1名 40代 男性1名、 50代 男性1名/女性2名 60代 女性1名
Bグループ：仙台市民 7名	30代 女性4名 40代 男性1名/女性2名
Cグループ：仙台への移住希望者 12名	30代 女性2名 30代 男性1名/女性4名 40代 男性3名/女性4名 50代 男性1名/女性1名



杜と水の都プロジェクト

「杜の都」の風土と文化に巡りあえる都市空間をつくる

「杜の都」という言葉に代表される自然と調和した都市空間の魅力をさらに磨くことで、みどりを実感できる居心地の良い空間を広げていきます。また、川や海などの水辺に親しめる空間づくりなどを通じて、魅力的な都市空間をつくります。

01

「杜と水の都プロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. 「杜の都」の象徴となる都心空間をつくる
2. みどりを楽しめる生活空間をつくる
3. 水辺を楽しめる親水空間をつくる

1. 空間づくりは大切ですが、魅力的なアトラクションやイベントの方が、集客効果は大きい様に思います。

2. 緑を楽しめる空間って、どの様な人達をターゲットとしているのか？イメージし辛いと思います。

3. 広瀬川と自然が一体化した公園に様々な目的を持った人達が、その目的を楽しめるスペースがあると思います。

(50代男性)

全体的にですが、けやき並木も公園も市の中心部は綺麗に整っている印象です。少し離れた公園までは手入れが行き届いていません。そのせいだけではないと思いますが、近年、子供達が毎日遊ぶ姿が少なくなっています。安心・安全・綺麗で魅力的な公園作りの見直しが必要だと感じています。

1. 仙台では勾当台公園には噴水がありますが、その他では定禅寺通等も水があるイメージがありません。そういった、人通りの多い所に小さくてもいいので噴水があると、杜と水の都が実現すると思います。

2. うちには小さい子がありますが、プールは危険なので、足元だけの水遊びはさせたいといつも思っています。足首くらいまでの水深で歩ける、地面から定期的に噴水が吹き出たり、普段着のまま水遊びできるそういった広場や公園が近くにあると、市民の憩いの場になるのではないのでしょうか。

屋根付のベンチもあるといいですね。

3. 仙台と言えば広瀬川ですが、いつも橋を通りながら眺めるくらいで、じっくり観賞したことがありません。せっかく綺麗な景観なので、岩手の畷美溪のように川を眺めながら、ずんだ団子でも食べられる茶屋なんかがあると名所になると思います。これも真似になってしまいますが、反対岸からの空飛ぶ団子も子供達に見せてあげたいです。

(40代女性)

全て抽象的な概念なので、それを具現化させてほしいです。

1. 定禅寺通も青葉通も、休日の一定時間を除けば賑わっているとは思えません。人を集める工夫としてをまずすべきだと思います。

2. 仙台の公園は子供が遊べる公園ではなく、デザイン性を重視した大人の公園だと思います。勾当台公園がその典型です。多様な年代が過ごせる公園の設備が欲しいです。

3. 観光客がわざわざ広瀬川に行くことはないと思うので、震災の教訓を生かした治水をまず充実すべきだと思います。

(40代男性)

1. 定禅寺通の景色も楽しめるメディアテークが好きですが、仙台駅から距離があるのでなかなか行くことができません。人々が気軽に休めたり、イベントをみられたり、キレイな図書館が駅から近くにあると嬉しいです。

2. 緑を楽しめる公園などが増えるのは嬉しいです。私が住んでいる地域には名ばかりの本当に小さい、手入れもされていない公園がたくさんあります。ですが、草が生い茂りすぎていて、蜘蛛の巣も多くはり、子どもを遊ばせたいとは到底思えません。

手入れが行き届き、人の目があり安全、キレイな公園が増えると嬉しいです。

3. 家では車がないのでなかなか海辺まではいけません。近くまで行く一歩る仙台のような周遊バスがあるとありがたいですし、観光の方も行きやすいと思います。

市内の公園、全部を紹介するようなリーフレット、今まで目にしたことがないのですが、今後公園などが増えるなら、特徴などを記載したリーフレットがあると嬉しいです。

(30代女性)

全体的には、大賛成、是非こうなってほしいと思います。

1. については、現在も定禅寺通や青葉通りなど良い空間はあるけれど、うまく活用できていないという印象です。何かイベントがあれば足を運びますが、車で行くには駐車場を探さなくてはならないし、ふらっと足を運んだり休憩したりできる場所ではないかな。イベント自体も少ないかと思えます。市民も来訪者も足を運びやすい、遊びに行きたくなるような工夫が必要だと思います。

2. 生活圏内の小さな公園では基本的な環境整備が行き届いておらず残念な状況だと思います。大きな公園はきれいに整備されていると感じますが、子供たちが毎日遊ぶ公園がおざなりになってしまっているのは、市民の方を向いていないと感じます。また、植物が生え放題で死角が多かったり薄暗い公園には子供の姿はほとんど見られません。ゴミやタバコの吸殻もよく落ちているので時々ゴミ拾いをしていますが、、、たくさん公園があるのに、手入れを怠っているせいで活用されていないのではもったいないです。

3. もっと水辺で遊べる場所が欲しいなど感じています。幼児を連れて水遊びをしに行きたいと思っても、安全にきれいな水で水遊びができる場所がありません。以前住んでいた県では、夏は毎日のように水遊びをしていましたが、仙台ではわざわざ遠くの公園に向かないと水遊びができないので、子供にとってほとんど水を身近に感じることはないと思います。

(30代女性)

全体的な感想としては、正直、今は杜の都というのは浸透していますが、水の都というのはあまりピンと来ていない人が多いのではないかと感じます。

1. イベントごとだけではなく、日常的に人がフラッと立ち寄り集まれる場所にしていこうというコンセプトであれば素晴らしいと思います。

2. 緑のイメージはありますが、緑が生茂る季節以外にも、その魅力を感じられるような街並みも大事なのではないかと感じます。

3. 水を体感するイベントの開催のほか、飲料水のブランディングや商業施設なども検討していても良いかと思っています。

(30代男性)

「空間」というワードがそもそも抽象的なので、お役所の絵に描いたような目標で終わらないでほしいです。だから、アンケートを実施しているんだと思いますので、何とか、現実的な提案をしたいと思います。

1. 杜の都の象徴について

仙台といえば、定禅寺通り。駅から遠いので何も知らない観光客さんには伝わりにくいかも。ただ、長い間培ってきた、先端的なイベントなどを開催しやすい空気が感じられるので、まずは、定禅寺通りから発信していくといいのでは。

2. 緑を楽しめる生活空間について

商店街や土地の持ち主さんとの兼ね合いがあるとは思いますが、開発や建築の計画段階で緑を取り入れる条件を組み入れてほしいと思います。条例にするのも必要になると考えます。

3. 水辺を楽しむ親水空間について

川も海も近いのに、利用する方法がわからないのはもったいない。広瀬川を利用するための導入路とか、安全に海岸を散策できる散策路とか。整備したうえで、知ってもらえるツールを用意するべき。海岸については、震災以来近づきにくい雰囲気がある。

(60代女性)

全体：緑ある街というのは既に定着していると思います。ただ手入れが行き届いていなかったり、設備が古かったり居心地が良いとはなかなか言えない場所もあるので、綺麗に維持していくことも大切だと思います。

1. 青葉通りや定禅寺通りではジャズフェスをはじめ様々なイベントが開催されていると思います。イベント時は混雑するので休憩所はもちろん、広い駐車場や渋滞緩和のためにシャトルバスを運行するなど高齢者や子連れでも足を運びやすいように検討してはどうでしょうか。ベビーカーや車椅子使用者は、そのようなイベントには行きたくても混雑が酷く、行くのを我慢してしまうこともあると思います。私も子供が小さい時に、授乳スペースがない、トイレが汚いなど経験したため、そのような人たちでも楽しめるようなバリアフリーエリアを作ってはいかがでしょうか。

2. どんな人にもでも「手入れの行き届いた綺麗な公園」は喜ばれると思います。私の住む町内会では定期的に住民による除草作業や公園清掃があるので、地域住民や企業・団体みんなで綺麗に維持していくような取り組みをしても良いと思います。

3. 山形の馬見ヶ崎のように芋煮やバーベキュー、花火が出来る場所が欲しいです。

(30代女性)



防災環境都市プロジェクト

持続可能でしなやかな都市環境をつくる

「杜の都」の豊かな環境に配慮した取り組みを進め、災害リスクの軽減にもつなげる「防災環境都市」を世界に発信します。また、災害への対応や環境への配慮の視点を日常生活に織り込み、持続可能でしなやかな都市環境をつくれます。

02

「防災環境都市プロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. 防災・減災の備えを日常生活に織り込む
2. 環境負荷の低い生活・ビジネススタイルを定着させる
3. 持続可能な都市インフラをつくる

「しなやかな都市環境」って何なのかがわかりません。官公庁でよく使われるワードだとは思いますが。

1. 震災を経験した以上、災害への危機感は恐らく日本でも強い地域だと思います。しかしその記憶も当然薄れていくので、書籍をはじめとするデータベース化とその拡散が急務だと感じます。

2. 最先端の環境関連技術は日々開発されていますが、それを導入している自治体がないのだと思います。積極的な導入を進める組織作りが大切なのでは。

3. レンタサイクルはだいぶ導入されていますが、その価格設定も安いとはいえません。民間は収益を考えると何もできないので、そこが行政の腕の見せ所ではないかと。

(40代男性)

先日見た朝の情報番組で、公園のベンチが災害時に炊事場になるというものを見ました。仙台は、比較的災害の少ない地域だと思いますが、地震については多く、街中に公園も多いので、そういったものを取り入れてもいいのではないかと思います。

私自身は震災を仙台で経験していますが、外国人の夫や息子は大きい地震を経験しておりません。

震災未経験の外国人観光客や留学生などにもわかりやすく、どう備えるべきか、絵などでわかりやすく知らせてほしいです。

できれば、意識しないでも目につく形で、広めてほしいです。

1もですが、特に2.3については、自分たち市民にどう関わってくるかを明確に教えてほしいです。

(30代女性)

読んでみると「そうだよね」と同意はできると思いますが、具体的な行動やイメージには結びつかない気がします。

確かに未曾有の大震災がおきましたが、やはり忘れられていくものなので、日々の行動や意識に働きかける施策が必要だと考えます。

(30代男性)

大きな自然災害を経験した都市として必要な視点だと思います。

1. ついては、行政として対応力の向上や製品・サービスの創出をやっていくというのは市民としては安心感があります。ただ、市民の日常生活に織り込むとなると、市民一人ひとりの意識の問題もあります。災害から日が経つと徐々に防災意識が薄れる中でどう対応していくのか気になります。

2. ついては、仙台はあまり市民の意識が高いとは言えないと感じています。分別されていないゴミの山、ゴミ捨て場から溢れたプラスチックゴミなどが大雨に流されていく様子もよくみます。以前住んでいたところでは、幼稚園や保育園の前に、不要になった子供服を入れる箱が置いてあり、入れるのももらうのも自由でした。また、スーパーで空き缶をリサイクル箱に入れると〇個〇円もらえるというのもありました。同じチェーン店でも、他県ではやっていて仙台ではやっておらず不思議でした。市民の意識レベルの向上が必要かと思います。「食品ロスの削減等を通じた資源の効果的な循環の仕組み作り」についても非常に興味があります。

3. ついては、仙台は車がないと不便に感じるので、交通機関が充実すれば実現に近づくと感じます。

(30代女性)

全体：市民一人一人の防災意識を高めることは良いことだと思います。また、3.11だけでなく、宮城県沖地震や洪水での被害も昔はもっとたくさんありました。

防災ハザードマップや震災時の避難場所の整備など、災害を教訓にしているんな整備をしていると思います。ただ、それが周知されていないため、若い世代や移住してきた方々に伝える力を強化していくことも大切だと思います。

私の住む町内会では公園清掃と炊き出し訓練が同日に行われています。地域住民で公園や道路を清掃してから、みんなで炊き出しをして地域住民の交流を深めています。

まずは町内会などの小さい組織レベルで実施すると一人一人が自分のこととして取り組んでいけるのではないのでしょうか。

1. テレビでコロナ禍での避難所運営の在り方を検討しているのを見て、取り組みの早さと防災意識の高さを感じました。財源が厳しいとは思いますが、公用車に電気自動車を取り入れ、非常時は蓄電池として、電気が止まった過疎地へ配置するなど。

1. 行政から様々なメディアを通じての注意喚起が必要だと思います。

2. 企業を巻き込んだ全国に類を見ない仙台市ならではの施策が必要だと思います。

3. 試験的に自転車専用レーンを設置して、自転車と歩行者の接触を減らすことも考えて欲しいと思います。

(50代男性)

1. 東日本大震災を教訓に災害に強い街づくりが大切だと思います。物理的なこともですが、発信力SNSの活用などで、ずっと発信し続けることが大切だと思います。

2. 食品ロスは大規模なことはわからないですが、フードバンクとの連携などはどうなのでしょう。

3. 自転車専用レーンもいろいろなところがありますが、上手に使われているとかちょっと疑問があります。明らかに色が違うようにするとかは必要だと思います。

これからビルなどをたてるときは、屋上庭園必須にするとか、避難拠点に出来るスペース作りなどはどうでしょうか？

(50代女性)

2. 仙台市はプラゴミと燃えるゴミの分別化に取り組んでいますが、他自治体や他県ではそのような取り組みをしていないところがほとんどです。効果があるのならもっとアピールが必要だし、他県に住む弟には「ごみ袋が高いわりに破れやすい」と言われたことがあるため、ごみ袋の費用や清掃業者の負担が大きいだけならやめた方が良くと思います。

3. 私自身は車が必要な地域に住んでいますので使ったことはありませんが、先日、東北工業大学の正門付近に伊達バイクが設置されているのを見て、若くて体力のある大学生中心にもっと活発に使ってもらえるのも良いと思いました。

JRや地下鉄から離れた地域に住んでいるのですが、バスが少なく乗り換えを考慮したダイヤになっていないので不便です。なので車2台持ち必須の世帯が多いのですが、そうすると朝夕の通勤時間帯の渋滞がひどく、雨や事故があった時は遅刻決定なのです。だいぶ前にモノレールを作るという話があったので、是非とも実現して欲しいです。

(30代女性)

世界から注目されている防災都市としての取り組みを積極的に推進して発信してほしいです

1. 防災・減災の備えを日常生活に折り込むについて2019年の仙台防災未来フォーラムにブース参加しました。大きなイベントで情報を発信し続けることと、一般市民が関心を持ち、学べる機会を作ってほしい。テレビのニュースで「今日は防災の日なんだ」と思い出すだけで終わってしまいます。印刷物は見られずに捨てられます

2. 環境負荷の低い生活・ビジネススタイルを定着させるについて

そもそも、仙台市のごみ分別がゆるい。大きな都市にありがちですが、分別に迷って電話したら、めんどくさい時は、燃えるゴミにしてと言われてました

3. 持続可能な都市インフラについて

割とコンパクトな都市なので、自転車レーンは必要だと思います。東口のイーグルス通り？で、係の方々が自転車レーンの走行を促す活動をされたことがあります。なかなか定着するのに時間がかかると感じました。

(60代女性)

大量の備蓄品や食品の備蓄で大量の廃棄が出るのは、税金や資源の無駄だと思います。

賞味期限切れは食べる事ができます。安く売るとか勉強の為に給食に出すとか、フードバンクは良いですね。

(50代女性)



心の伴走プロジェクト

多様性を尊重し、あらゆる人が安心して暮らせる地域をつくる

様々な立場や状況・ライフスタイル・価値観を地域全体として包み込み、互いに多様性を尊重して支えあい、あらゆる人が孤立せず、安心して暮らすことができる地域をつくります。

03

「心の伴走プロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. 多様性が尊重される環境をつくる
2. 孤立しない、つながる仕組みをつくる
3. 心を支える環境をつくる

1. 仙台に移住した人にとって、溶け込むのにも時間が掛かります。溶け込めば、なんてことはないのですが。。。多様な価値感を受け入れることは、教育する必要性を感じます。

2. 自分で発信しないと新しいコミュニティに入れないのですが、苦手な方が多い印象です。受け皿を作りながら、呼び込む施策があるといいですね。

3. 様々な事情があつてのことと思います。難しい課題ですね。

(50代男性)

グローバルが重要な現在、非常に重要なことだと思います。閉鎖的な地区にならず、多様な理解を示すことを目指したいです。

1. 性別や年代は当たり前として、国籍を超えた交流によって自分たちにも言語や風習など学ぶものがあります。多国籍なイベント作りなどが重要だと考えます。

2. 年長者からコミュニティを押し付けるのではなく、若年層の嗜好に寄り添った新しいつながりを作っていきたいです。

3. 仙台はもろもろのいじめ事件によって悪いイメージがついているので、大きな施策を取って払拭すべきだと思います。

(40代男性)

私は個人的に、仙台市に最も足りない部分だと思っています

1. 多様性が尊重される環境を作る
私は、子どもから大人までの発達障害特性を持つ方々の環境整備のサポートを教える講師です。市民があまりにも知識がなさすぎるし、学ぶ場所も機会もない。合理的配慮について知らないことは、要求することも出来ないことです。環境整備を掛け声や、建前だけにしてほしくないと思います。

2. 孤立しない、つながる仕組みを作る
ひきこもりの女性の居場所作りのグループを作っている最中ですが、コロナの影響で集まるという行動が難しくなっています。きっと、小さくても熱心に活動してきている人達がいるはずなのに、出会うチャンスが見つかりません。市が音頭をとってネットワークを作って欲しい。

3. 心を支える環境を作る
いじめに対する対策が甘すぎると感じています。仙台市では、助けてもらうことは出来ないが大勢の方々も思っているはずですが、報告させることに大きな意味をもたせず、行政側の毅然とした姿勢と、発信力を強化してほしいです。

(60代女性)

多様性、孤立しない、メンタルヘルスや人権について触れられていて、目指すべきところはごもっともだと思いますが、具体的にどういったことをされるのが大事だと思います。

福祉の世界でも「伴走支援」という言葉はよく使われるのですが、伴走というのはそもそもどういったことなのか、誰が誰に対して行うのかなどが不明確なままでは伴走できないような気がします。

(30代男性)

LGBTへの視点が抜けていると感じます。同性パートナーシップ制度も東北ではまったく制定されておらず（弘前市で近く制定される見込みですが）、仙台では議論の俎上にも乗っていない印象です。1で「性別」という言葉が入っていますが、具体的には何も言及されていません。

また多様性を尊重の点に関し、仙台人の気質的に横並び意識や異質なものを受け入れるのに時間がかかるように思います。「世間一般」からはみ出した多様性に対し、理解がない・そもそも知らない（知ろうとしない）ということがあつてと思います。

言うは易く行うは難し、この心の伴走プロジェクトは市民一人ひとりが当事者意識を持つには息の長い啓発活動が必要に思います。

1. 障害の有無に関して合理的配慮の推進という点では、障害者の就職率・定着率が上がるような施策を希望します。一口に障害といっても、身体・知的・精神と様々で、さらに各人でそれぞれ状態は千差万別です。特に精神障害者は雇用率が低いうえに、雇用されてもそれぞれの体調に配慮した就業体制を作るのに企業が不慣れと感じます。

そもそも、企業や市民一人一人が、障害に対して知らないということが大きいのではないのでしょうか。特に見た目で見えない障害では、自分の身近に障害者が存在することに無自覚すぎます。無自覚がゆえに、知らず知らずのうちに無理解からくる当事者を傷つける発言や行動、合理的配慮を欠くようなことが行われていると思います。

この点に関しては、障害のある人だけに向けてではなく、広く市民に働きかける必要があると思います。例えば市民講座や企業への研修や、それらは興味のある人にしか響きませんから、関心を持っていない層へもアピールする機会を持ってほしいと思います。

昔は当たり前だった近所付き合いも、今は隣近所に誰が住んでいるのかも分からないのが日常化しています。このままではもっと閉鎖的な環境が進み、何かあった時の助け合いの精神も薄れてしまうので、そうならないような取り組みが必要だと思います。

1. コロナウイルスの新生活様式がますます人々を孤独にさせています。外国人のみならず、同じ日本人でも差別的な目で見られ人と交流するのが非常に難しい状況です。そんな中でも交流する場を求めている人がいます。十分に対策をとり、性別や国籍関係なくコミュニケーションが取れる場が徐々に増えていくのが理想です。

2. 私には障害を持つ親族がいます。一年中病院を往き来し、働くこともできずほぼ家の中で生活をしています。障害があることは近所にも知らせておらず、隠れて生活をしているようでもどかしさを感じております。そういう人達が交流できる場はなく、病院で開催される「障害を持つ家族同士の交流会」が1年に一度ある程度です。探すともしかしたらあるのか

2. ひきこもりは、自らつながりに行くことができないからひきこもりなので、ひきこもり本人がアクセスしやすいシステムを作っていただきたいです。例えばホームページなどのネットに相談窓口を設けるなど。

8050問題に象徴されるように昨今のひきこもりは親も高齢化しているので、日々の営みに精いっぱい親が相談に出向くのが困難な場合もあります。高齢者問題には地域包括支援センターがあるように、たとえば民生委員が支援のワンストップ窓口につないでくれるなどするといったのではないのでしょうか。相談していない、可視化されていない当事者の中にはどこに相談したらいいかを調べる余裕もない人もいると思います。

3. いじめに関しては、今までは認識が甘く対応も後手にまわりがちだったと思います。これ以上痛ましい犠牲者を出さないために、教育者の認識を新たにすることがあると思います。

メンタルヘルスに関して、現在もこころの電話相談などをされており有効だと思います。メンタルに問題を抱えた本人だけでなく、同じ職場の上司や同僚・学校の教師や友人と言った、本人を取り巻く人も気軽に相談できる窓口があればいいと思います。

(40代女性)

もしもですが、障害を持つ本人がコミュニケーションできる場、働ける所等を相談できる場がもっとあると良いです。

3. いじめに関しては、私にも子供がおり何度か経験がありますが、いじめが全くなくなるのは無理だと思っています。なぜなら誰も見ていない時、SNS上で大人に隠れてできるからです。いじめをしたら、学校に通えない、将来がない、くらの厳しい厳罰を与えない限りこれからも続くので各学校の対応を厳しいものにしてもらいたいです。

(40代女性)



地域協働プロジェクト

多様性を力に変える地域をつくる

より良い地域づくりのためには、地域によって異なる成り立ちや魅力、課題等に応じた協働が必要です。住民だけでなく、地域に根差した市民活動団体や若者、企業などの多様な主体が関わり、多くのチャレンジが生まれる環境をつくりまします。

04

「地域協働プロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. 多様な協働が生まれる基盤をつくる
2. 多様な主体の力を地域に活かす
3. 地域の交流を活発化させる

一年半ほど前にこちらの地区へ引っ越してきましたが、地域コミュニティへの参加は全くありません。

でも外国人の夫や子どものためにも、地域との関わりがほしいと思っています。

地域のコミュニティへの参加がしやすいようになるのであれば良いプロジェクトだと思います。

1. 地域の企業同士で手を組み新しい事業が生まれたり、地域住民との意見交換などで新しいサービスが生まれるのではないかと思います。

2. 地域をどうくくるのかにもよりますが、ごく小さな地域コミュニティでは、お年寄り、もしくは小学生の子供やその親を対象とした集まりはありますが、若者を対象にした集まりはイメージがありません。その地域で育っているか、その地域で働いているかでないと、地域課題に対しての興味関心は生まれにくいような気がします。どこからどう意見を集めるのか、また誰が主体となって動くのが重要かと思っています。

3. 私達のように地域の集まりに参加したくても、どう参加していいかわからない人は多いと思いますので、イベントがあると参加しやすくなるのではないかと思います。

(30代女性)

1. 公共の会議室などが使い易くなるといいですし、オンライン設備を備えた場所が

あると有効活用出来る可能性を感じます。

2. 若者の意見が尊重される場があるといいですね。

3. 多くの市民に情報が届く様な仕組みが出来ると活性化されると思います。

(50代男性)

私自身は、異文化に興味があるので、人生が楽しくなりそうです。価値観が変わると思います。

1. 企業との連携がいかないとはいけません。個人的に思っていたのですが、市政だよりのイベントは平日で働いている人が参加しにくいような気がします。

2. 若い人の力はパワーに満ちています。パソコン教室などでも、専門家を呼ぶのではなく学生に先生をしてもらって、手取り足取り教えてもらうほうがやりやすいかなと思います。

(50代女性)

私の住んでいる地域では、学校や周辺地域と連結をし、色々な行事・イベントが開催されておりますが、中心となっているほとんどが年配の方です。若い人達、子育て世代、働いている人達は忙しくあまり主体となってできていないので、何らかの形でみんなが参加できるようになれば良いと思っています。

1. 近くにコミュニティセンターがあり、いくつかサークルがあるのですが、もっと色々な種類があると嬉しいです。こちらも年配の方中心なので、子供の習いごと(空手、書道等)がコミセンでできたらかよわせたいです。

2. 今住んでいる所の移動手段はバスのみです。しかも泉中央行きだけで、とても不便に感じています。バス通りは片道一車線が多く、渋滞も頻繁におきています。無理な追い越しで危険運転もみられるため、バス停の所は、後続車がスムーズに進めるよう乗り降りできるスペースをきちんと作ってほしいです。

3. 地域の交流を活性化させるには、若い世代の人達ももっと主体となって活動できたらいいと思います。若い人達の中には、交流を避ける人も少なくありません。町内会では茶話会、カラオケやゲートボール大会等、若い世代向けの集まりがありません。他の地域ではどのようなことをしているのか情報を知り得る手段を教えてください。

(40代女性)

仙台は震災の影響もあり、地域協働の動きやイベントなどは積極的に行われている感覚を持っています。

もっともっと大学生や学校、医療機関、自治体、その他いろんなジャンルの協働が盛んになり、具体的なアクションが生まれていく場が必要だと感じます。

特に行政の腰が重く、なかなか変化していない気がします。

(30代男性)

多様性を生かす方向性は賛成ですが、具体的に今地域で何ができているのかと考えると、あまり思い浮かぶものがないのが正直なところ。今現在の漠然とした、抽象的なイメージから、小さくても良いから具体的な事業に落とししていくのが大事だと感じます。

1. 「地域づくり」「公共」というキーワードを目にして食いついてくる人は、特定の人物に限られている気がします。興味関心は人によって様々かと思いますが、料理教室、勉強会などなど、その人が気軽に参加できるコミュニティが仙台にも増えれば良いと思います...と私を含めて、他人任せ・他人事のように発言してしまう人が多い土壌を、そもそもは変える必要があると思っています。

外部(主に県外)から講師を呼び、勉強会などのイベントの面白さを知り、そこから新たなコミュニティを運営する市民を地道に増やしていくのが現実的なのではと考えています。

2. 「若者のアイデアを生かす」のであれば、それを受

大切なことだとは思いますが、難しいことです

企業が関わることは賛成です。

1. メディアテークがその役割にあたるのかもしれませんが、テクノロジーについてはあまり思い当たることがありません。最先端テクノロジーを活用した施設があれば情報をお願いします。

2. 若者のアイデアを生かすためにも若者が仙台に住み続けよう、と思わせる施策がまず必要な気がします。

3. 交流イベントになるとどうしても年長者が旗を振ってしまいがちですが、若者に企画してもらう仕組みづくりを考える必要がありそうです。

(40代男性)

多様性を生かした地域づくりに賛同します。

1. 住民の力だけでは実現が難しいことがあっても、協働がうまくいけば課題解決に向けて一気に加速することも期待できますね。

2. 若者のアイデアももちろんなのですが、移住者、障害者、高齢者など、移動に於て弱者になりやすい立場の方の意見を活かすことが最も大事だと思います。

3. 自由でオープンな交流の場は各地に作って欲しいです。行動範囲が限られてしまうような方々が気軽に参加できて初めて自由に参加できると思えるのと思います。

(30代女性)

受け入れられる土壌が必要だと思います。以前「若者を受け入れたが、地域の人(主に高齢者)が気に入らないとアイデアが起用されず、結果的に若者は去っていった」と言った内容の記事を読んだことがあります。ここで言う「若者」が「新しいアイデアを提供してくれる若者」なのであれば、受け入れる側の地域住民にもそれなりの変化への覚悟(を知ってもらうこと)が必要だと思っています。

3. 今はこくちーずやPeatix、Connpassなどイベント・勉強会をオンラインで通知するサービスが広がっています。私も最近よくチェックしていますが、とにかく仙台で開催されるものは限られています。ほとんどが首都圏、オンラインのものです。現在、仙台市内でもオフラインでイベントをされている団体さんはあると思いますが、こう言ったサービスにあえて多くの人の目に見える形で載せることで、盛り上がりを増やすことはできないかとも思っています。

(30代女性)

仙台市は大きくなることで、住みやすさから遠ざかってきたように思います。小さな市民の言葉など反映されることはないのだなと感じてきました。プロジェクトが現実に実行されるために、質問にも率直な意見を言っていきます。

1. 多様な協働が生まれる基盤をつくる

地域のことを話し合うのは、町内会のご老人ばかりなのが現実です。子供会の地区長をしていた時、意見を言うと前年踏襲でと言われました。

2. 多様な主体の力を地域に活かす

交通が不便です。若者の力を活かすには、参加したいと思うコミュニティが必要

3. 地域の交流を活発化させる

公共の施設がほとんど自由には使えなくなっています。お金がかからずに集まることのできる場所を設けてください

(60代女性)



笑顔咲く子どもプロジェクト

子どもたちの未来が広がる環境をつくる

希望する人が安心して子どもを産むことができる環境づくりが不可欠です。また、子どもたちのチャレンジの場をつくり、人生を切り開く力を伸ばすとともに、子どもたちの個性を尊重し、地域で守り育てる環境をつくりまします。そして、大人も子どもとの関わりを通じて学ぶ、社会がより良い方向に進むための好循環を生み出します。

05

「笑顔咲く子どもプロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. 意欲を引き出し、伸ばす教育環境をつくる
2. 個性に合わせた成長の機会をつくる
3. 子育てを楽しめる環境をつくる

安心して子どもを産むことができる環境づくりは、なかなか大変な課題だと思います。産んで終わりではなく、そこから20年近い子育て期間に親の負担が軽くなければ、少子化は解決しないと思います。男性も女性と同じくらい子育てにかかわらなければ、女性の負担は増す一方です。

1. 学校・地域・家庭による協働では、現在職場体験を行っている学校も多いようですが、果たして小学生に実地の職場体験は必要でしょうか。アエルの施設で十分なような気がします。職場体験は受け入れる方も結構な負担ですし（受け入れ先を探す先生も大変でしょう）、小学生は将来の職業選択というよりお店屋さんごっこ・社会科見学の域を出ていないと感じます。

反対に中学生からは、将来の職業選択を見据えて多業種で職場体験ができるといいと思います。

2. 小中学校で高校や大学の教員、地域の人材、ネットを介して遠方（海外を含む）の人材の授業がある

といいのかなと思います。しかし講師をセッティングするのは学校の先生まかせにしては負担が増すばかりですので、コーディネイト担当・または支援の市の部局があればいいのかなと思います。

不登校の子どもに関しては、図書館や博物館などの市の施設へ平日でも出入りできるようになれば、居場所が増えます。ずっと不登校という子だけではなく、今日は学校へ行きたくないという子が一日だけ利用してもいいと思います。有料の施設は、無料になるパスなどがあればいいですね。

3. オンライン活用の点では、Twitter、ラインなどをうまく活用してほしいです。情報を渴望している切羽詰まった人は、いちいち市のホームページに飛んで必要な情報を見つけられる余裕はないので、ラインなど普段使っているメディアで相談できるといいと思います。

(40代女性)

子供プロジェクトの前に、希望する人が結婚したりパートナーを得ることが出来るプロジェクトが先でしょう。

この事も以前提案しましたが、前例がないとの回答を頂きました。そして、この問題が経済的視点でのみ考えるべきではない。

(50代女性)

1. 能力を持ったお子さんが家庭の事情などで進学を諦めることがない様な施策を打って欲しいです。

2. 個々の長所を伸ばせる様な教育には大きな教育改革が必要だと思います。

3. 前例に囚われることなく、多様な人が参画出来る仕組み作りが必要だと思います。

(50代男性)

1. 学校視点で考えれば、やはり教育の質の向上だと思います。学力とかの意味ではなく正しい道徳観とか人としてどうあるべきかということ学ぶ機会が少ないのだと思います。学校もそうですが親としての資質も生活に手一杯で回らない親もいるのでまずそこをどうにかして思っています。

2. 課外活動の場をつくる。親が働いていなくても学童保育に行ってもいいとかちょっとしたことだと思います。小学校の空き教室を使つての大学生、高校生の交流会とか、学習会とか、親以外の人と関わるって大切だと思います。

(50代女性)

未来に希望が持てない状況の中、本気で子どものこと、子育てのことを考えて実行してほしいと心から思います

1. 意欲を引き出し、伸ばす教育環境をつくる
横並びで同調することを求める教育はもうやめてほしいです。どんな基準で教師を採用しているのでしょうか？民間から人材を登用したらいいのではとまで思います。

2. 個性に合わせた成長の機会をつくる
不登校でも、ずにいられるように。今は、親子共に納得できる居場所は多くないです学校が嫌いでも居場所があつてほしい。出来る子も押さえつけられ個人で頑張つて活動している方々はいますが、一般に知られていません。

3. 子育てを楽しめる環境をつくる
今は、保健所と、町内の役員による年に数回のお茶会ぐらいしか交流の場所がないです。気軽に参加できる情報共有と出会いの場を、市の若いお母さん職員が現実的な、実行可能な企画を考えるといいのではないのでしょうか。

(60代女性)

やはり子どもたちにとって「教育」の影響は凄まじく大きく、周囲の大人の影響も大きいと感じます。

特にコロナによって、授業の遅れなどもあり、ますます詰め込み教育化してしまうのではないかと危惧しています。

道徳や哲学といった人と人を通じた実学が子どもたちにとっては必要だと考えますし、合っているか間違っているかではなく、自分の意見を述べる、自由に発想するという機会をもっともっと作つてあげるべきなのだと感じます。

人と違うということは個性であり価値のあることだと肯定するところからだと思います。

(30代男性)

概ね賛同しますが、安心して子どもを産むことができる環境づくりに関してあまり書かれていないのが気になります。

1. 学校・地域・家庭の協働、オンラインの活用で、学習についていけず置いて行かれるのがいないようサポートが充実できると思います。

様々な国から移住されている方々がいますし、オンラインも活用して、実際にいろいろな文化や言語や思いに触れて、相互理解が深まることを期待します。

2. 来年小学校入学の知人のお子さんが発達に心配があるのですが、学校選びにあたって、苦手なことを強要されて学校が嫌いにならないかと心配しているようです。それぞれの特色や児童・保護者の声が聞けたり、

希望する人が安心して子どもを生むことができる環境づくりとのことですが、今年はじめに子供を生みましたが、妊娠中から現在まで不安しかありません。

お金の問題、産院選び、コロナ渦での子育て、保活問題などです。同じ地域での経験者がおらず、私自身働いているなかで、イチから自分で情報を探さねばならず、かなり負担を感じました。

そのうえ、母子手帳を取りに行った際、大量の冊子やチラシを渡され、産後の説明までを一気にされて、何一つ頭に残らず、ただただ呆然としたことを思い出します。

産前のサポートは、よりの確、かつ端的にしてほしいです。

1. オンラインを取り入れた授業はぜひ推進してほしいです。ネット環境のない家庭もあると思いますが、今後グローバル社会で生き抜く力をつけるためには、ネットスキルを身につける必要があると思います。ただ、それだけではなく、自らの考えをプレゼンできるような能力も同時に養う教育をしてほしいです。

2. それぞれの個性を尊重した教育はとても良いと思います。ただ、教員が必要以上に多忙になることのないように配慮していただきたいです。以前、教育関係の仕事に就いていましたが、新しい方針を取り入れる際、昔からのやり方を変えたくない教員も多くいるように感じました。新しいことを取り入れる先生とそうでない先生で子どもたちの習得差が生まれないようにしてほしいです。

3. 子育てを楽しめる環境ですが、3月に子供を生んでからコロナの影響もあり、ほとんど外へ連れて行っていません。オンラインで楽しめる親子イベント等が浸透すれば参加したいです。また家にいながら図書館の本を郵送などで借りれるなら借りたいです。

(30代女性)

実際に見学できる機会が増えると良いなと思います。公立校は、児童の多様性などに関して先生方の理解が深まり、どの学校に行っても相違なく公平に多様性を認められるよう、教員への指導なども必要かと。

3. 仙台には移住者も多くいますので、誰にも相談できずに引きこもってしまう親子もいます。相談に行っても、期待した対応をしてもらえずに、それがトラウマになってそのご二度と相談に行きたくないと思ってしまうことも。相談できる場所や方法をインターネットや広告で広めたり、相談を受ける立場にある方々の指導は必須です。安心して外出できるや、様々な遊びに触れられる、に関しては他の設問への回答通りです。

(30代女性)



ライフデザインプロジェクト

自分らしい生き方が実現できる環境をつくる

人生100年時代の暮らしを充実させるため、その前提となる健康づくりへの意識向上を働きかけるとともに、多彩な学びの機会があふれる環境やライフスタイルに合わせた活躍の場をつくることで、個性が輝き、創造性あふれる豊かな社会をつくりまします。

06

「ライフデザインプロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. まちの至る所で学びと実践の機会がある環境をつくる
2. 誰もが活躍できる環境をつくる
3. ライフステージに合わせた健康を支える

自分らしい生き方が実現できる環境は、それぞれの多様性を受容することにも通じると思います。

また、多彩な学びの機会やライフスタイルに合わせた活躍の場のある生活は、今までの仙台にありそうでなかった（探せばどこにはあったのかもしれませんが、情報にたどり着けなかった）ことで、とてもワクワクします。現在、東京やオンライン上でしか見つけることのできないそうした機会が仙台にもっとあれば、市民にも、文化芸術の催事は観光客にも魅力のあるものとなるでしょう。

1. 多彩な学びや体験をまちづくりの実践の場というのは、市民センターや市の施設で行われている講座がそれに当たると思いますので、現在行われているこれらを深化させればいいと思います。受講者が、学んだことを地域にフィードバックしてまちづくりの講師・リーダーとなることで実践の場を作ると思います。

音楽や芸術などの創作活動で言えば、市が主導しなくても市内には様々な団体がありますし、新しく個人や団体で始めようという人もいますでしょう。市に望むのは、そうした人たちが創作活動がしやすくなるようにサポートしてほしいということです。

活動場所は、現在でも場所貸しの施設が沢山あって、市民のサークルやバンドやダンスのチームなどが利用できていますので、とても良いと思います。

例えば施設使用料の減免で創作活動をバックアップするとか、音楽会や個展、作品の展示即売会などに助成金を出すなどどうでしょうか。

また、現在音楽は施設に楽器が備え付けられていることもありますし、演劇は稽古から大道具から作れる施設もあります。文学の面では少し弱いように感じますので、文学館などで機能強化してはいかがでしょうか。自費出版は高額になりがちですが、同人誌・個人誌は比較的安価にできますので、制作をサポートする講座や道具の貸し出しなど（表紙作成用のPCソフトやコピー自家製版用に印刷機、裁断機な

ど）。

2. これは多様性が広く社会に受け入れられて初めてなるものだと思います。

想定していた「普通」からはみ出す人々が、ありのままにいられて自己実現できるような世の中になればいいということかと。

そのためには、ハンディのある人もない人も、その人が思い描くキャリアやライフスタイルが実現できるようにサポートする必要があると思います。

現在支援の手から漏れている人々に届くような支援を期待します。

3. オンライン診療を推進してほしいです。コロナ禍で規制が緩和されていますが、仙台ではまだまだオンライン診療をしているところがないと感じます。私は複数の病院にかかっていますが、検査などなく医師とお話をして薬を処方されるだけのこともあります。そういう時、オンラインだったらどんなに便利で楽かと思っています。健康づくりの面では、現在でも特定健診でメタボの人は希望するとサポートプログラムが受けられますが、これに運動も加えたらと思います。介護予防でもそうですが、スポーツ施設での健康教室や体を動かすレッスンなどです。

(40代女生)

実現すればすばらしいことだと思います。

1. 現状の施設に少しづつその要素をプラスしていけばいいと思います。そのための箱モノは不要です。

2. 雇用の需要があることが大前提なので、まずは企業誘致や景気回復が先決では。

3. 現状の体育館やスポーツ施設を拡充することで達成してほしいです

(40代男性)

健康寿命を伸ばすことは、個人だけで無く社会全体にとって有益で、そのためには学びや活躍の場は必須だと思います。

1. 音楽に触れると言えば、ジャズフェスや勾当台公園のステージでの演奏、サンタのパレードなどが思いつきますが、その他多くの人が芸術に触れる機会というあまりピンときません。積極的に芸術に触れようとする人は美術館などに足を運ぶのでしょうか。様々な体験や学びをまちづくりや仕事につなげていければ理想的だと思いますし、市内で行われる学習会や体験会にも積極的に参加したいと思います。

2. これからの時代は、魅力的な街づくりのために必須だと思います。私自身、育児が落ち着いた時にすぐに仕事に復帰できるか不安がありますし、現在の生活スタイルにあった仕事探しは今現在うまく行っていないので、早く実現して欲しいと思っています。

3. 個人的には産後の健康づくりに関心があります。それぞれのライフステージの方に効果的に情報が伝わるようにするのがまず難しい問題だと思います。また、ictを活用のための財源確保と、その方法を利用者に指導する必要もあるのですぐに実現するのは難しいように感じます。しかし、このコロナ禍にも有用なので、できるだけ早く多くの人が利用できるようになって欲しいです。

(30代女性)

1. 「学び合い」があるといいなと思います。教える立場だった人が教えられたり、教えられる立場だった人が教えたり、それが障害の有無や大人か子ども、国籍や性別の違いなどいろんな立場の違いが価値となったらいいいなと思います。

2. 「こんなことができます！」というプチ自慢がたくさん集まるような雰囲気や環境、イベントがあるといいなと思います。

3. コロナの影響によって様々なオンラインツールやICT、AIといった技術がある中で、気軽に試したり使ってみる場があるといいなと思います。ライフデザインをしていくためには、デザインシンキングをベースに、いろいろと実際に行いながらきちんとその結果やプロセスを評価し、継続的に自由な発想で取り組んでいくといいのではないかと考えます。

(30代男性)

今の仙台に欠けているところかなと思います。

1. まちのいたるところでまなびがあるといいですね。実際のところそうでもないですね。北山のお寺とか色々学びたいところもありますが、周知下手というか、企業とのタイアップなどかあるといいかなと思います。

2. 以前障害者とその家族を対象とした音楽会、仙台フィルハーモニーがあったのですが、ここ2年ぐらい前からなくなったようですし、文化的な行事は減らさないで欲しかったですね。

3. 一番難しいですね。やはり市政だよりでの周知とか、プロ選手の学校訪問など子供のころからの刷り込みが必要かなと思います。

(50代女性)

これからどんどん求められていく分野だと思いますが、実行するのがとても難しいテーマだと思います。自分らしいと簡単に言っても、自分のことを知ることから始める必要があります。

1. まちの至る所で学びと実践の機会がある環境を作る
県民会館や美術館の移転問題にも表れるように、仙台は学都と言われても芸術分野では親しむ場所が貧弱です。求めている人は居るのに場がありません。

2. 誰もが活躍できる環境を作る
私は、年に何度も公民館や市民センターなどで「人生100年時代の安心ノート講座」を開催しています。先行きの見えない不安を抱えたままで100年生きたくはないと言われる方が多いです。そして、公民館などに出てきて学ぶ方々はほとんど高齢者です。自分が希望するライフスタイルを考える前に、働き盛りの年代は食べていくのに精一杯な状況です。私が起業する時に、介護の問題を抱える不安を相談した仙台市のスタートアップのアドバイザーが「介護が終わってからすればいいじゃないの」とおっしゃったことをずっと忘れません。プロジェクトの理想を実現する人材を教育してくださいとお願いしたいです。

3. ライフステージに合わせた健康を支える
中高年の健康作りを担うのは、今は、同じ中高年のボランティアが多いです。福祉にさく予算が少ないのかと思います。ICTの活用を考えるのであれば民間企業の力をかりるべきです。行政の動きの遅さにはあきれられるほどです。

(60代女性)

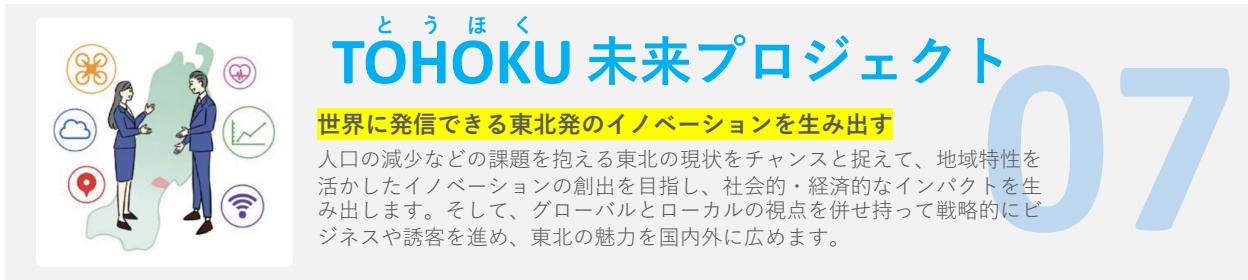
1. 市民の多様なニーズに合ったものを提供できれば、効果はありそうですね。

2. 民間への需要喚起策が必要だと思います。

3. 手軽に運動出来る施設、車以外での移動の有効性を訴求する施策があれば、

ウォーキングや自転車の利用率も上がるかもしれないですね。

(50代男性)



「TOHOKU未来プロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. 東北を舞台にイノベーションを生み出す
2. 仙台・東北の産業の成長を支える
3. 仙台・東北に世界中から人を呼び込む

東北人は控えめなどと言われますが、ぜひ東北の魅力を世界に発信して欲しいと思います。

1. 歴史や伝統は確かに重要だと思いますが、そこで立ち止まっていたらイノベーションは起こらないので、「新しいことに挑戦する」「今までにないことを受け入れる」そういった環境や風土を作っていく必要があると思います。

レンタルスペースやシェアオフィスを安く貸したり、企業誘致の土地を設けるなど新しい事業者が参入しやすくしてあげても良いと思います。

2. 次世代放射光施設についてよく知らないため、これが今後私たちの生活にどのような影響をもたらすのかわかりませんが、新しい技術がより良いものを生み出してくれることを期待しています。東北は農業や水産業を営む方も多いので、地産地消ですが関東圏や関西にも東北の美味しいものを届けられたら良いなと思います。

コロナで新幹線利用客が減ったため、空いた座席を使って輸送するというニュースを見ました。今後も継続して行って欲しいと思います。

3. 世界中から人を呼び込むために、仙台空港や仙台駅などもっとわかりやすく利用しやすくして欲しい。電車の本数など交通機関をもっと充実させてほしい。観光名所だけでなく、過疎地にも足を運んでもらえうように民泊体験や農業体験などの宿泊プログラムがあっても良いかと思う。

(30代女性)

一人でイノベーションを起こせる人はいないと思います。同じ問題意識のある人が個人ペースでプロジェクトを組みやすくする必要あり。

東北大学の学生が仙台のイノベーションに魅力を感じてくれるように、開かれた学校を目指し、社会と交流して欲しい。

私も東北大の知能を生かして考えて頂きたいテーマがありますが、接点がありません。一部の産学連携に携わる有識者だけの狭い世界のように感じています。多様な人が大学と繋がる必要を感じます。

首都圏から優秀な人材を呼び込む。首都圏から若い人が移住したい、一緒にまちづくりしたいと思われる仕掛けが必要です。

(50代女性)

1. 学校との連携もいいかもしれないですね。優秀な人材＝発信力がある人も限らないのでその所が難しいかもしれません。私自身もどういうところで情報を得ていいかわからないです。

2. 仙台は東北としては最大の都市ですが、東北各地の協力というのも大切なと思います。地元が潤うような協力関係がきずけるといいと思います。箱物をつくるときも、東北内の企業優先などはどうでしょう。

3. 空港の整備もですが、空港からのアクセスも直でつながるといいと思います。後は海外のちは人好きそうなアニメイベントとか、グルメ旅を計画するとかはどうでしょうか。

(50代女性)

人口減少をチャンスと捉えてイノベーションを生み出す、という意味がわかりません。

1. 東北大学ともっと連携し、起業家の育成に取り組めばいいと思います。

2. どちらにしても日本の中心は東京なので、東北にこだわらずに首都圏のアイデアをもっと柔軟に取り込んでいけばよいと思います。

3. こちらも東京との連携ではないでしょうか？外国人が東名阪を飛ばして東北に来る、という流れは想像しにくいです。

(40代男性)

賛成です。今までの「田舎の」「貧しい」「閉鎖的な」東北地方のイメージから変化して欲しいと思っています。

1. イノベーションを起こす上では外部(都心、国外含む)から人材を集めるものと仮定して以下記載します。

仙台市は、自然と程々の都市部が融合した住環境としては申し分ない街だと思っています。都心のそれと比べれば情報量は圧倒的に少ないですが、オンラインが普及しつつあること、逆に余計な情報をカットできるという意味でも、専門家の方々には集中しやすい環境が提供できるのでは？と素人考えですが思います。

ただ、外部(都心、国外など教育水準が仙台より高い場所)から家族で移住する場合、仙台市内の学校のレベル感がネックにならないか？が気になります。(イノベーションを起こすくらいの人材のご家族であれば、それなりの高い教育水準を求めそうな気がするのですが・・・)

「なぜ東北地方が貧しいのか」と繋がると思っていますが、そこに住む住民が外来者を受け入れられる位には素養を高める・底上げするのは必須だと思っています。でなければ、外部から呼び込めたとしても、失望感や孤立感を深めて出ていかれるのでは？と感じるからです。

実際に、以前通っていた外国籍の英会話講師2名から個人的意見ではありますが「仙台人は俺のことをじろじろ見てきて不快だ(仙台の街には好感を示しても、仙台人への悪口は多かった)」「福岡やソウルは色々面白いイベントやコミュニティがあって住みやすかったが、仙台は何もなくてつまらない(と言って福岡に移住した)」と言われたことがあります。

宮城は仙台を中心として人口は増え続けていますが、秋田や青森など他県は若い世代が県外に流出し、人口は減る一方です。ですがコロナ禍の現在、テレワークの普及により地方へ移住する人が増えているようなので、空き家等を生かし移住してもらえよう対策をしていくべきだと思います。

1. 仙台郊外には、トヨタなどの大手企業の工場が増えています。東北の広い土地、豊かな自然、東北のカルチャーを国内外にアピールすることができれば、興味を持ってもらえる企業が増えると思います。

2. 可能な限り地産地消ができれば、もっと食費が抑えられるので、スーパー等で宮城県産が増えると良いです。いつも買い物をする時、必ず産地を確認します。地元農家のコーナーにある野菜は、量も多く安いのにスペースは狭くお店のごく一部にすぎません。これがメインの野菜コーナーを占めるぐらいあればかなり嬉しいですよ。

3. 東北は昔ながらの伝統や変わらぬ自然に触れ合える地方だと思います。各県の祭りをはじめ、東北の武将、世界遺産の中尊寺金色堂、白神山地、松島などの観光地、温泉をもっと国内外に発信できれば、観光地としてとても魅力的に思ってもらえると思います。

(40代女性)

2. 最先端技術と地場農業を推す取り組みはユニークで面白そうですね。農業が盛んな東北、東北大学のある仙台ならではの感じました。今でも仙台駅やアーケードでは、県内各地(気仙沼、南三陸、石巻、亶理のはらこ飯、山元のいちご...)の食の販売を目にすることがありますが、引き続き県内・東北地方内の地場産品をアピールする場を提供するのが、東北一の政令指定都市としての役割だと思っています。

3. 1に書いたこととも重複しますが、(特定の誰がということではなく)住民全体として外来者を許容できるマインドを醸成しなければいけないと思っています。自分自身もコロナ前は年1回は国外へ旅行していましたが、人種も異なり言葉もままたまらない見知らぬ外国人を温かく迎え入れてくれる人がいるとその土地に愛着が湧くものです。

また、仙台に限らない話ですが、中高であれだけの時間英語教育に時間を割いていて、実践の場で全く使えないのは時間の無駄に感じます。「あれだけの時間割いた外国語」の経験を生かして、仙台市内の店などの施設に足りない英語・中国語etcの案内を増やしてあげたらお互いにメリットがあるのではと思います。

(日本人がよく来るような国では、なぜこんなところにまで!?)という位に日本語の案内表示があったりします。結局は「迎え入れる姿勢」、打算的な言い方をすると「売り上げを上げるチャンスを見逃さない」ということだと思います)

(30代女性)

1. 一朝一夕にイノベーションを起こすということは難しいと思うので、例えば小学生のうちから自由な発想やアイデアを形にしていけるような環境作りから時間がかかってもやるべきだと思います。

2. 東北の伝統工芸や地場産業、観光といった部分に関しては、もっともっと人を巻き込んでいかなければいけないと感じます。そういったところに関連したビジネスプランやコンサルティングなどはもっと増やしてもいいと思います。

3. 多様な国々となつがっていくことでインバウンド化や多国籍化を進めていくといいと思います。

もはや、コロナの影響で「場所」というファクターはそこまで意識しなくてもいいのではないかと感じたりもします。例えばZOOMを使えば、東北だろうがグローバルだろうが、場所や地域はあまり関係なく、たくさんの人が交流し、イノベーションを起こすネットワークを作ることでもできます。

「TOHOKU」にこだわりすぎず、遠隔地であっても、TOHOKUに直接関係なくても、様々な人が参画しやすいイベントやピッチの機会などを設けていけばいいのではないかと感じます。All Japanの中に、TOHOKUがあるイメージで。

(30代男性)



都心創生プロジェクト

人が集い、新しいチャレンジが生まれる都心をつくる

多くの人々が集まる交流の要所・仙台の都心が、絶えず人を惹きつけ魅力あふれる場所であるため、都心の開発を促進させ、ビジネスや交流の基盤を整備することで、意欲のある方々が集い、新しいチャレンジが生まれる環境を整えます。さらに、多様な主体の連携を通じて様々なコンテンツをつくることで、回遊性が高く、働く場・楽しむ場として魅力的な都心をつくりま

08

「都心創生プロジェクト」についてご意見をお聞かせください。

実施の方向性

1. 投資を呼び込むまちをつくる
2. イノベーションが生まれる都心をつくる
3. まちの回遊性を向上する

1. こちらを読んでいて思い出しましたが、トラストタワー、アエルのオフィス内で社内アンテナを立てても携帯電話やWi-Fiが入りづらいということがあり、調査してもらったことがあります。気象台の観測アンテナが近く、影響を与えているとか、ビルが多くてアンテナを受信しづらいなどと仰っていました。

それが正しいのであれば、新しいビルを建てる際には互いに邪魔をしないよう整備してほしいです。また観光客向けのフリーWi-Fiスポットや、無料で充電できる場所、コワーキングスペースなども増えると良いと思います。

2. アシスタでは個別の事業立ち上げのサポートをしてもらっていますが、各事業者のコラボの提案や、交流会などがあると良いと思います。他事業の人とお話する機会もあまりないので、ワークショップ型のイベントの開催などが増えると嬉しいです。

3. 用事がなくても気軽に立ち寄れるところが増えるといいなと思います。休憩を兼ねて立ち寄り、イベント情報や子育てに役立つ情報などが見られると嬉しいです。

(30代女性)

1. 都心は地価が高いのか、空きテナントが いっぱいあるような気がします。経済が回る = 会社が潤うのですが、企業にとっても魅力ある提案をしていかなければと思います。

2. 産学が協力するのは必須ですね。学生の、夢物語の中から何か生まれるかもしれないですし、また積極的に異業種の人と交流する場があるといいですね。

3. 地下鉄沿線は回遊性はいいですが、他はそうでもないです。地下鉄を中心にイベントをしたりすることが大切ですね。市民でありながらそんなに地下鉄にも乗らないです。今あるものを工夫して回遊性が高められればいいですね。

(50代女性)

他から来た方は、駅前からの街並みを見て、都会だねえとおっしゃいます。創成なので、新しくするばかりでなく、見直すことも大事だと思います。

1. 投資を呼び込むまちをつくる

投資をするのは、利益を得たいからです。東京からのアクセスがいいので、オフィスビルを整備するのは必要だと思いますが、家賃があまり上がらないようにすることも必要だと思います。社会情勢がここまで変わってしまったので、思いきって経費が掛からない方向を目指すべきかもしれません。空き家、空きビルの利用は必要ですが、時間がかかると劣化して利用できません

2. イノベーションが生まれる都心をつくる

個人で新しいことを始めている方はいますが、持続していくにはお金の面をはじめとする経営のフォローが必要だと思います。産学官金の技術やのハウを活用するには出会う場を設ける役目をはたしていただきたいです。

3. まちの回遊性を向上する

歩いて回っても、魅力的な街になって欲しいと思います。仙台に来たら、青葉城に行き牛タンを食べておしまいではつまらないです。松島まで行かないと満足しないと仙台在住の方でも思っているのではないのでしょうか？

(60代女性)

1. 東京の本社機能がある企業が仙台を選択出来るようなメリットを提供出来るようになれば、変化する可能性はあると思います。

2. 東北だけでなく、日本全国とネットワークを持つことが必要な時代だと思います。

3. 市内中心部の老朽化した建物などの建て替えは必要だと思います。

(50代男性)

ハード、ソフト両面での都心づくりと理解しました。仙台駅前では旧さくら野百貨店など再開発がこれからの一等地があり、市役所の庁舎の建て替えも控えている今は、ハード面でも都心創生をデザインするのに好機だと思います。ソフト面ではICT関連企業などの誘致を集積させることによって、一層企業に選ばれる仙台になれると思います。

1. 再開発の機運のある今こそ、個別に整備するのではなく都心全体としてのデザインを描いての整備が望まれていると思います。都市公園などの公共空間を効果的に配置することによって都心としての魅力がさらに増すと考えます。

2. スタートアップ・エコシステムが分からなくて調べたのですが、スタートアップ企業が次々に生まれてくるいい環境を作るといったことのようなですね。起業しやすいまちづくり、企業・起業家・教育機関等が新しい事業に挑戦しやすい応援体制を構築することによって、仙台がイノベーションが生まれやすい街だと広く知ってもらい、さらなるスタートアップ企業が仙台で生ま

1. 仙台の街は若者にとって飲みに行く場所というイメージはありますが、遊んだり、ゆっくり過したりといったイメージになっていないように感じます。

そういった娯楽やリラクゼーションの場を盛り上げる、面白い企画を考えてくれる企業を誘致してもらいたいです。

2. イノベーションにはやはり教育が大事だと思います。

1人の天才やセンスではなく、多くの人のコラボや自由な発想から生み出す視点を大事にしてもらいたいです（ハッカソン、ピッチ、フォーラムなど）

3. 新しいテクノロジーをどんどん導入し、テクノロジーのショールーム化をしていけば、おもしろい街になりそうです。

(30代男性)

コンテンツの充実は今後の発展に向け非常に重要なファクターだと感じます。

1. 投資を促進させるならばまず金融的なアプローチが必要だと思います。補助や金利優遇などでしょうか。

2. 仙台は支店経済なので、それぞれの本店へのアプローチで各サービスの誘導を行ってほしいです。

3. 仙台はそもそも中心部一極集中型なので、特に必要とは感じません。

(40代男性)

れる好循環を作ってほしいものです。

3. まちの回遊性を向上するという点では、街なかを循環するバスなどがあると便利かと思います。シェアサイクルなども広がって来つつあり、自転車専用道路の一層の整備など。歩いて巡りたくなる空間には、休めるところが多く必要ではと思うので、至る所にベンチや東屋があると高齢者をはじめとした歩行に難を抱える人も安心です。

音楽ホールの整備検討に関しては、音楽鑑賞に特化した大規模ホールが欲しいというのがそもそもの出発点なので、いろんな意見を取り入れた末に多目的ホールになることだけは避けて頂きたい。市内に多目的ホールは多数あり、今後は特徴のはっきりしたホールを整備する必要があると考えます。

(40代女性)

仙台駅周辺は買い物をするのに適していますが、カフェやレストラン等を除き、落ち着いて誰でもゆっくり休めるような場所、そして交流できる場所がないのが少し残念です。

1. 仙台市中心部は新しいオフィスビルも多くなりましたが、仙台朝市の周辺など一歩路地を入ると老朽化が目立つ建物があり、表裏のギャップが激しいです。そういう場所にはあまり行きたいと思わないので、立地が良いだけにもったいないと感じています。建て替えに期待です。

2. 誰でも立ち寄れて自由に見学できるギャラリー、図書館もあり落ち着いてゆっくり休めるメディアテークが私は好きなのですが、駅から少し離れているので駅前にもそういう場所があるともっとコミュニティも広がると思います。

3. 市役所の老朽化も目立ちますが、ファッションビルの中でもだいたい古く感じる場所があり特に若い世代に敬遠されています。やはり清潔感が一番だと思うので、ある程度の年数が経ったら、建て替えやリフォームが必要です。回遊性でいうと、駅前なら駅前だけ、一番丁なら一番丁だけで終わってしまい、長い距離を見て歩くことが少なくなりました。以前仙台駅から楽天命パークまで乗れるペロタクシーを見たことがありますが、どこから乗れてどこまで乗れるのか全く分からず、街中でもそんなに見かけないので、もっと活用してもらえるよう台数も増やし名物的なものになれば、駅から遠い場所にも人が流れていくと思います。

(40代女性)

参考：仙台市移住希望者にとっての「杜の都らしさ」とは？

仙台市への移住希望者12名から集まった「杜の都らしさ」についてのご意見を抜粋しています。

	1) あなたにとっての「杜の都らしさ」とは？
(女性・30代)	都会的な部分と田舎(自然)な部分、両方を感じられるところというイメージです。
(男性・40代)	<p>現在東京で暮らしていますが、オフィス、自宅周辺で不足しているのは、「緑とくつろぎ」だと強く感じています。大手町や丸の内では、部分的や目抜き通りに緑を多く植える取り組みを行っていますが、根本的に空気や周囲の音（雑音）もおおく、何のくつろぎにもなっていません。</p> <p>「杜の都らしさ」としては、このオフィス街であるにも関わらず、「緑とくつろぎ」が感じられることを先ずは求めます。</p> <p>また、街ではなく、あくまでも都なので、そこにはたくさんの人が集まり、商業活動の中心となる魅力が必要。</p> <p>しかし、ただ商業施設を建設しただけでは、長続きしないため、特徴やコンセプトを市政が定めることで、内外に強く印象を与えることが必要。ただのショッピングモールがありますや、大型の映画館やアウトレットができただけでは、もはや都市としては長続きしないと思います。</p>
(男性・40代)	<p>杜の都らしさといえば自然との共存ですね。</p> <p>生活の中に自然が溶け込んでいて自然ともに生きるという感じがします。</p> <p>現在ある自然を生かしながら川や森や海など生活するイメージです</p>
(女性・30代)	自然が豊かで、ゆっくりと流れる時間だと思います。結婚前に何度か旅行で伺いましたが、そんな雰囲気が好きです。
(女性・30代)	家族で遊びにいった感じるのは、都会的なのに自然が感じられる所(^^)オシャレなお店が立ち並ぶ通りを歩いている、木や緑が多いからか、ゆったりした雰囲気を感じられるのが「杜の都らしさ」かなと思います。
(女性・50代)	<p>碁盤の目に整備された街並みは、通りによって少しずつ違う雰囲気を出しています。</p> <p>統一されている中に、個性が見られる。</p> <p>そんなところが杜でありの都の発展を感じさせます。</p>
(女性・40代)	<p>自然に囲まれて、海や山などが割と近くにあり身近に感じられるけれども、様々な文化や新しいスポットなどもあり都会的。</p> <p>住みやすい環境かなと思います。</p>
(男性・30代)	<p>都会的でありながら自然との融合もありこどもの成長にも良い影響を与えることのできる街並み。</p> <p>都会過ぎず、自然もありゆっくり心豊かに暮らせる街、そんなイメージです。</p>

(女性・40代)	<p>自身が今東京の中でもかなりの都心に住んでいることもあり、「自然の豊かさ」という印象です。</p> <p>ゆったりとした時間の流れです</p>
(女性・30代)	<p>「まちづくりの理念」拝見しましたが大変素晴らしい取り組みですね</p> <p>特に副題の The Greenest City というのが大変関心を持ちました</p> <p>仙台の自然の豊かさを生かしつつ、ゆったりとした時間の流れがあるようなずっと時間を忘れてい続けたいような居心地の良さです</p>
(男性・40代)	<p>仙台は東北を代表する大都市です。</p> <p>近代化された街並みと豊かな自然が共存する街</p> <p>それが杜の都仙台ではないでしょうか？</p>
(女性・40代)	<p>居住地も商業地も四季を感じられる自然があること。公園を設置したり部分的なことではなく、建物の合間に木々の植樹、コンクリートではなく歩道の一部を芝生にしてみる、ビルの屋上の緑地化など、どこかに行かなければ自然を感じられないのではなく、すぐそばにある自然を増加させてほしい。常に季節の移り変わりを感知される空間だと気持ちが落ち着くと思っています。</p>

参考：仙台市移住希望者にとっての新しい「杜の都」とは？

仙台市への移住希望者12名から集まった、新しい「杜の都」にも残していきたいこと、についてのご意見を抜粋しています。

	2) 新しい「杜の都」にも残していきたいこととは？
(女性・30代)	都会的などころばかりだと息が詰まってしまうので、ほっとするような自然も感じられて、ゆったりとした時間が流れるちょうど良い都会にして欲しいです。
(男性・40代)	私が仙台に関して、強く印象をもっているのは、「ガヤガヤ感がないこと」です。東北随一の繁華街でありながら、すごく冷静さももった都市だと感じます。 だから、実際に行くときと落ち着くのかもかもしれません。新しい「杜の都」では、ただ人をたくさん集めてがやがやの活気をつけるのではなく、その都市の冷静さを持ち続けてほしいです。 また、こどもを連れて行っても安心感がある都市だと思っています。これは上記のような冷静さを感じられるからだと思います。是非、今後もこどもを積極的に旅行に連れて行ける場所のままであってほしいです。 ちなみに私の場合は、小さいこどもを大阪や名古屋に旅行に連れていくことをためらっています。これらの地域に対してはあまり小さいこどもを連れて行ける安心感を持っていません。
(男性・40代)	人間が住みやすい環境だけでなく動物やほかの生物も住みやすい環境を残してほしいと思います。
(女性・30代)	皆さんもおっしゃっていますが、「子供を連れていきたいと思えるような雰囲気」は大事だと思います。緑豊かで、落ち着きのある街であってほしいです。

(女性・30代)	家族連れ、特に小さな子ども連れでもゆっくり過ごせる雰囲気はこれからも残して欲しいです(^^)✨ 仙台の新しいスポットが紹介されたフリーペーパーや雑誌をみていると、面白そうな子ども向け施設が沢山オープンしているのが嬉しいです！
(女性・50代)	駅前から広がる青葉。 古さと新しさが混在する、そんな雰囲気を残していきたい。 取り壊したり建て直したりするだけでなく 古さを残し、新しさを生み出せたらと思います。
(女性・40代)	少子化なので、子供を産み育てていきたいと思わせる街であってほしい。 落ち着いた雰囲気で、穏やかに過ごせる街というイメージがあり、人柄が良くて安心できる場所としていて欲しいです。
(男性・30代)	私としては子供が安心して過ごせる自然や環境。特に休日に子供とゆっくり遊べるような公園や施設なども残していきたいと思います。 また、年配の方も子供も過ごしやすい環境を意識して全世代にとってそれぞれのあったらいいなという形を残してほしいと思います。 具体的には既出ではありますが、バリアフリー、自然の豊かな公園、外国人も訪れても困らない言語表記など大切だと思います。
(女性・40代)	あくまでもイメージですがスコットランドのように旧と新の共存がより人を豊にしたり、人を集めたりすると思っているので、ゆとりを残したいです。
(女性・30代)	環境問題やエコロジー、緑化、SDGsなどの活動を積極的に取り入れながら自然の豊かさを生かした街づくり そして、AI技術や国際豊かな都市として最新技術とエコ、環境に配慮した住み良さ、住み心地の良さを残したいです 住みよさは若い人だけでなく、シニア層にとって快適なバリアフリーであったり、外国人に優しい英語などの表示であったりいろんな人に住み良い環境であってほしい
(男性・40代)	もちろん、誰でも受け入れる おおらかな人間味、心人柄、大自然 これは100年後300年後も永遠に残していきたいですね。 グリーンシティには大共感します！！
(女性・40代)	建物間のゆとりと、きれいな碁盤目の通り、高層ビルを増やさない、「空間のゆとり」を残してほしい。都会に住んでいると空間の狭さがそのまま人の心の余裕のなさにつながっているような感じを受けます。仙台に帰省した時は、ペDESTリアンデッキに出た瞬間大きな深呼吸をしたくなります！ そして交通インフラの良さ。運転しやすさが安全運転にもつながっている。バイパスの流れ、道路の広さ、郊外への行き易さがとてもいいと思います。